



壱岐島の春



農業振興普及課の花神の桜



半城湾の「桜美崎」

チューリップ、今年も
きれいでした！



「津神社の牛まつり」
今年は仮装にも参加
しました！



壱岐の蔵酒造の菜の花畑



壱岐振興局農林水産部

壱岐家畜保健衛生所

〒811-5734 長崎県壱岐市芦辺町国分本村触1385-1

TEL : (0920)45-3031

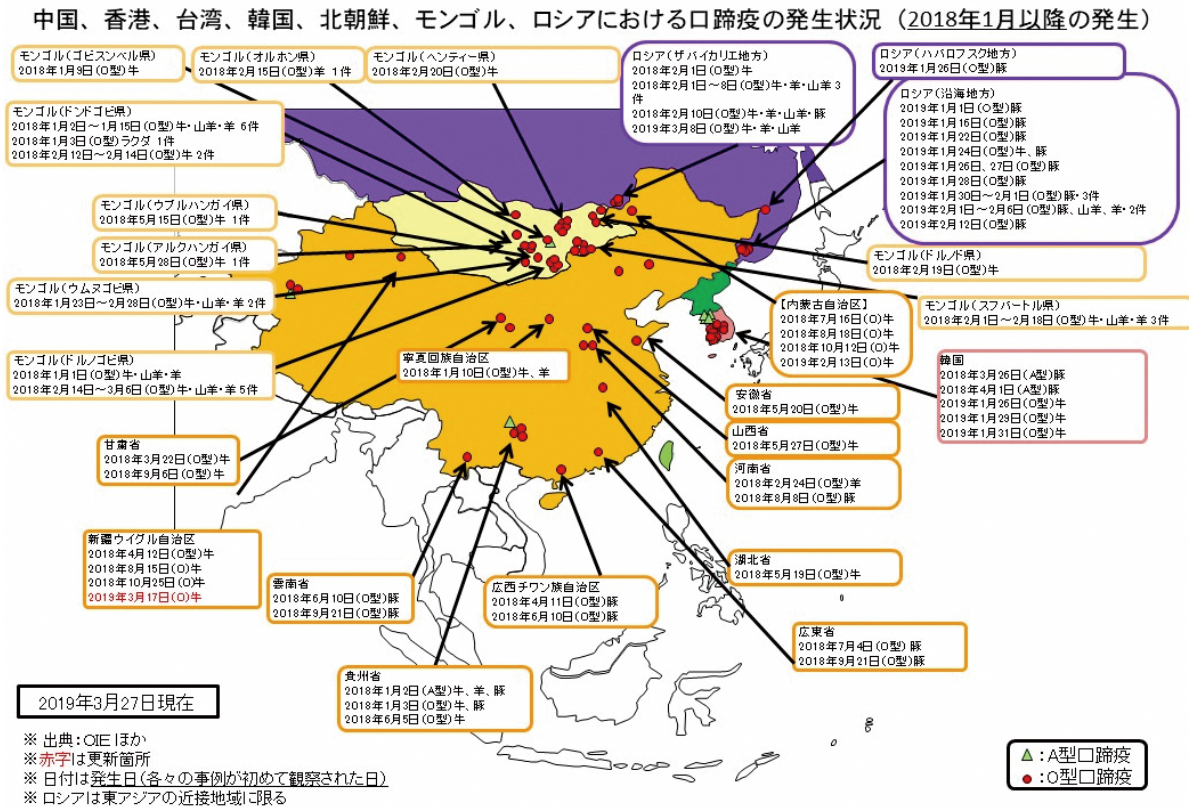
E-mail : s13230@pref.nagasaki.lg.jp

FAX : (0920)45-3386

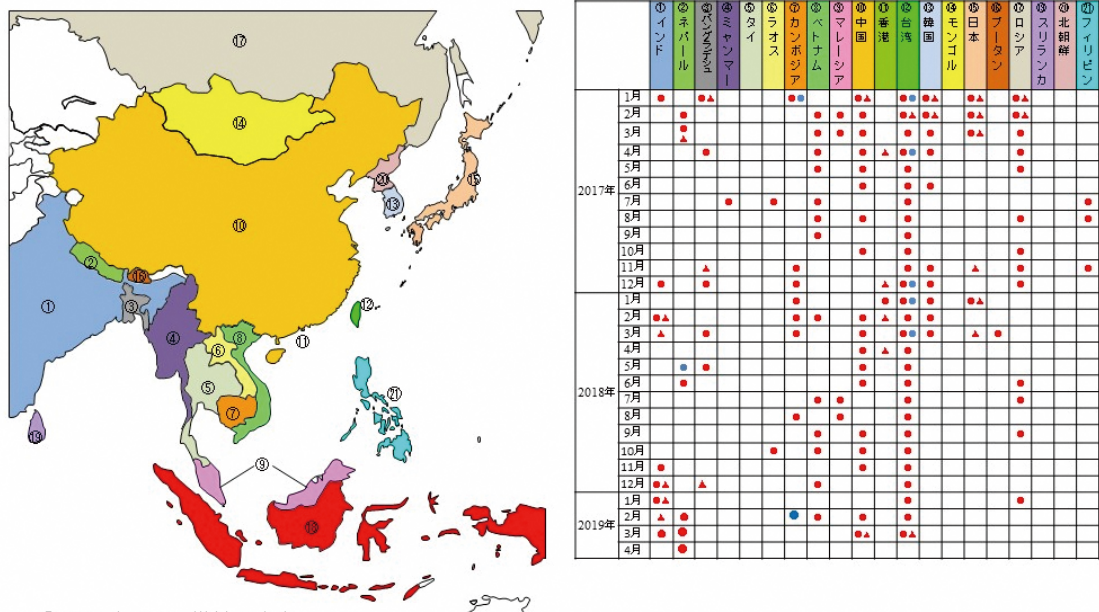
特定家畜伝染病の発生状況

◆口蹄疫、鳥インフルエンザ

昨年度、口蹄疫および鳥インフルエンザの国内の農場における発生は確認されませんが、近隣国や東南アジア諸国では両疾病とも継続して発生が確認されており、病原ウイルスの国内への侵入リスクは非常に高い状況が続いています。

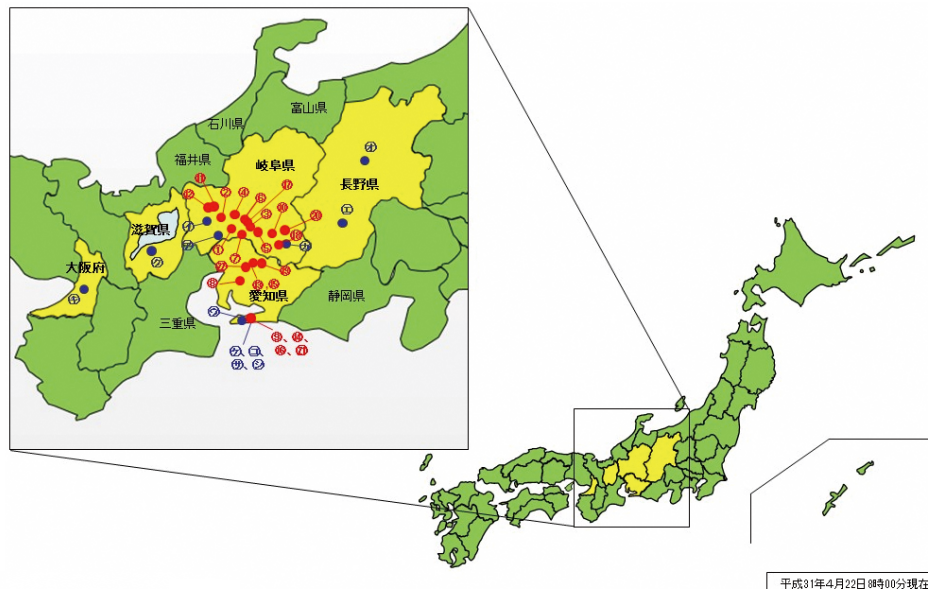


アジアにおける高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの発生状況



◆豚コレラ

平成30年9月に岐阜県の養豚農場において、国内では26年ぶりに発生が確認されました。これ以降、発生が拡大し平成31年4月22日現在、1府4県で22例、48農場の約89,000頭の豚が殺処分されています。また、岐阜県と愛知県の野生いのししで豚コレラ陽性事例が多数確認され、野生いのししに対する経口ワクチン利用等による病原ウイルスの拡散予防対策も実施されていますが、更なる発生拡大が懸念されています。



◆アフリカ豚コレラ

アフリカ豚コレラは、これまでわが国で発生が確認されていない越境性動物疾病ですが、近年、アジア地域に侵入し発生が拡大しており、国内への病原ウイルス侵入が危ぶまれている疾病です。

特に中国で発生が拡大しており、本年4月現在、本病により約37万頭の豚が殺処分されています。また、本年2月にベトナム、3月にはカンボジアでの発生が確認されており、アジア地域での発生拡大が継続しています。

本病の発生拡大の原因として、ウイルスに汚染された食品残渣の給与や野生いのししなどを介し、ウイルスが農場内へ持ち込まれたことが考えられています。わが国でも、国内に持ち込まれた肉製品からウイルス遺伝子が検出された事例が複数確認され、本年1月には中国から持ち込まれた豚肉製品から、感染力を維持したウイルスが検出されており、国内での発生が危惧されています。

以上をはじめとした家畜伝染病発生予防のため、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします！！

<ポイント>

- 看板の設置等により、部外者の立入を制限しましょう。
- 衛生管理区域に出入りする車両の消毒をしましょう。
- 海外に行く際には、畜産関連施設には近寄らないようにしましょう。また、海外の畜産物・畜産製品を持ち帰らないようにしましょう。やむを得ず、畜産関係施設に立ち上がった場合は、帰国時に動物検疫所のカウンターにお立ち寄りいただき、農場への立ち入りに関する注意をご確認ください。
- 家畜に異常がある場合は、直ちに獣医師の診療を受けましょう。

県外導入牛は 必ずヨーネ病検査を受けましょう

ヨーネ病は、慢性の頑固な下痢と消瘦を主徴とし、衰弱死に至る法定伝染病です。ワクチンや治療方法がなく、感染牛は同居牛に感染を広げることから、ヨーネ病の感染が確認された牛は、まん延防止のために殺処分することとなっています。本病は感染してから発症するまでの期間が長く、その間、感染牛でも見かけ上は健康にみえるため、導入した牛が感染していることに気付かず、自分の農場に感染を広げることになります。また、一度侵入すると清浄化までに最短でも3年を要する非常に厄介な疾病ですので、導入時の検査が非常に大切です。なお、国内の発生状況は、下表のとおりです。

本県では県外から導入された繁殖用の牛は、すべてヨーネ病の検査を実施することとしていますので、県外から導入する場合は、事前に当家保まで連絡し、検査を実施するとともに、陰性を確認するまでは他の牛と隔離する等の対策をお願いします。

《ヨーネ病の発生戸数、頭数の年次推移》

		H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
全国	戸数	331	211	293	326	327	315	373	268
	頭数	615	405	573	783	691	624	816	728
九州内	戸数	17	5	7	9	5	10	13	10
	頭数	31	8	9	13	7	13	28	68
県内	戸数	2	0	2	0	0	2	0	0
	頭数	7	0	2	0	0	2	0	0

H30年10月現在

牛異常産の発生にご注意ください！

昨年度実施した牛異常産を引き起こすアルボウイルス（蚊やヌカカなどの吸血昆虫によって媒介されるウイルス）調査において、壱岐を含む県内の広範囲でデアギュラウイルスの動きが確認されました。本ウイルスに感染した母牛から生まれた異常子牛は、起立不能、歩行困難、虚弱、自力吸入力の欠如、視力障害、旋回運動などの神経症状を呈することが知られています。このような子牛が認められた場合には、診療獣医師もしくは当所まで連絡をお願いします。

吸血昆虫は本ウイルスだけでなく、アカバネウイルス、アイノウイルス、チュウザンウイルスといった異常産の原因となるウイルスを媒介します。吸血昆虫の活動は初夏から徐々に活発になることから、予防のためには、4～5月頃までに牛異常産ワクチンの接種を済ませておくことが大切です。今後も牛異常産の発生防止のため、牛異常産ワクチンの接種をお願いします。



平成30年 精液利用ベスト10

壱岐地区での総利用本数は11,142本（対前年789増）、このうち県有種雄牛は9,135本（82.0%）で、前年比+0.7ポイントでした。

No.	種雄牛	所有者	利用本数 (前年利用本数)	シェア (%)	前年順位
1	金太郎3	長崎県	5,012 (3,667)	45.0	→ (1位)
2	弁慶3	長崎県	1,331 (904)	11.9	↑ (4位)
3	平茂晴	長崎県	1,240 (1,555)	11.1	↓ (2位)
4	美国桜	鹿児島県 徳重	630 (641)	5.7	↑ (6位)
5	百合幸	長崎県	567 (889)	5.1	→ (5位)
6	勝乃幸	長崎県	494 (917)	4.4	↓ (3位)
7	隆之国	鹿児島県 羽子田	343 (243)	3.1	↑ (8位)
8	美津照重	家畜改良事業団	282 (355)	2.5	↓ (7位)
9	幸紀雄	鹿児島県 徳重	212 (170)	1.9	↑ (10位)
10	花勝国	長崎県	139 (13)	1.2	↑ (26位)

※集計期間：平成30年1月1日～12月31日

県有但馬系種雄牛『美津洋』誕生！

脂肪交雑 BMS.No. 9.7（長崎県但馬系歴代1位）

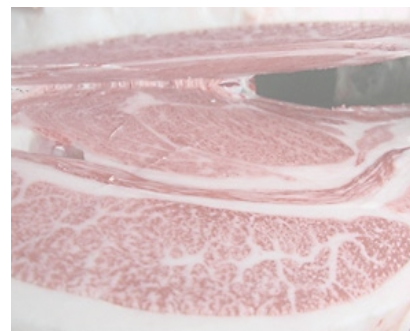
「美津洋」号（血統：茂洋- 美津福- 平茂勝）
の現場後代検定が終了し、脂肪交雑（BMS.No.）が
9.7と、県有但馬系種雄牛の中で本県歴代1位、
全体でも「勝乃幸」号（10.3）に次ぐ第2位と
なる成績を収めました。また、枝肉重量524kg、
ロース芯面積70.6cm²と良好な成績でした。

今後、但馬系種雄牛としての活躍が期待されま
す。



○現場後代成績（美津洋：去勢牛10頭平均）

	脂肪交雑 (BMS.No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (平方cm)	バラ厚 (cm)	上物率 (%)
美津洋	9.7	524.3	70.6	8.3	100
県平均	7.0	500.3	60.5	8.0	82.0



※（県平均：H29年次県産産子肥育成績（去勢）の平均値）

組織図

令和元年度

新体制
よろしくお願ひします



鬼塚伸幸
農林水産部 副部長
(壱岐家畜保健衛生所長)

<衛生課>



谷山敦
(課長)

<衛生班>



高山裕介
(係長)



日高裕介
(主任技師)



富永知宏
(獣医師)

新規採用



中山航
(獣医師)

<庶務>



長戸洋子
(嘱託)

・ 転入者あいさつ ・

4月から長崎県に採用され、壱岐家畜保健衛生所に配属となりました、獣医師の中山航と申します。大学卒業後、3月までは北海道の新千歳空港で動物検疫の仕事に就いていましたが、この度、水際検疫ばかりでなく、国内防疫にも携わりたいと考え、家畜保健衛生所を志望しました。壱岐の地で、地域の主幹産業である畜産業の発展に貢献できるよう、頑張って私自身の知識・技術も研鑽したいと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。



・ 転出者より ・

県職初任地かつ初めて訪れる壱岐は本当に温かく素晴らしい場所でした。2年間という短い間でしたが、皆様のおかげで楽しく仕事をすることができました。何年後かに必ず2度目の壱岐に赴任したいと思っていますので、その時はよろしくお願いいたします。本当に、お世話になりました。

久保翔太郎→県北家保へ異動

◆ 編集後記 ◆

4月になり、日差しや鳥の声から春を実感しております。4月初旬、夜に桜見があり参加しました。確かに桜は美しいものでしたが、桜よりもそのときに出たご馳走が印象に残っています。自分はやっぱり花より団子でした。